

これまでの50年

いわき市議会発足50周年に合わせ、市議会のこれまでのさまざまな取り組みを記録として取りまとめ、市議会に対する市民の理解を深め、関心を高めるとともに、身近な議会というイメージを醸成するため、いわき市議会発足50周年記念誌「いわき愛」を発行しました。記念誌では、期別の出来事について60項目を厳選しました。この要約版では、そのうち特筆すべき項目を選定し掲載しています。いわきの50年を振り返る上で参考になれば幸いです。

第1期

昭和41年10月～
昭和43年9月

日本一のマンモス議会

現在のいわき市は、昭和41年10月1日、平市、磐城市、勿来市、常磐市、内郷市の5市に、旧石城郡の四倉町、遠野町、小川町、三和村、好間村、田人村、川前村の3町4村及び双葉郡の久之浜町、大久村を加えた5市4町5村の合計14市町村が合併して誕生しました。

議会においては、市町村の合併の特例に関する法律（昭和40年3月29日法律第6号）の規定により、旧14市町村の全議員333人が、そのまま「いわき市議会議員」となりました。当時は「日本一のマンモス市議会」として全国的にも話題となりました。

昭和41年11月21日、初めての議会である臨時会が招集されました。臨時会では議長と副議長が選出され、2年間の「暫定議会」として運営されていくこととなりましたが、333人も議員によるマンモス議会には、大所帯の議会であるがゆえの、さまざまな困難や課題が浮上してくるようになります。

まずは、本会議場の選定です。

旧市町村にはそれぞれ議場がありましたが、300人以上で会議ができる議場などありませんでした。幸いにも、全議員分の席を確保できる施設として、市の仮庁舎の隣に平市民会館（現在、いわき芸術文化交流館が立地）があり、その大ホール（収容数1,770人）を仮議場に決定しました。

また、議会に設置された6つの常任委員会もまた60人

近い「大所帯」となったため、その会場を探すのも困難を極めました。事務局は会場探しに奔走しましたが、常時審査できる会場はすぐには見つからず、会場側の日程に合わせて委員会を開催したり、昨日と今日とで会場が変わったりすることもありました。

さらに、旧14市町村ごとに地域の実情が異なり、予算などは、旧14市町村ごとに「地区振興特別委員会」を設置し、地区ごとの要望や実情に合わせて審査するという方式でした。こうして、ようやく合併14市町村の合意が得られたのです。

昭和43年9月、新市発足後初となる市議会議員選挙が行われ、48名の議員が選出されました。

新体制の発足とともに、マンモス議会は姿を消しました。



▶ 議員333人での初議会